

おんぎょど 音齋人 新聞

新着情報

「音齋」におんぎょどに支所ができました…などとかつてに書くと、ご本人からはお叱りを受けるかも知れない。

「音齋」に常連で通ってくださっている、明智町在住の熊谷さんが素敵なリスニングルームを完成されました。八月の「音齋」時にお招きをうけ、お言葉に甘えて早速おうかがいしてきました。

土台の地均しから、部材の選定、外壁・内装など全て手づくり、熊谷さんとその従兄弟の方とお二人で仕上げられたそうです。防音対策も万全で、中やかなりの音量で聴いていても、外への音漏れはほとんどなく、夜間でも気兼ねなく聴ける環境です。

室内は、オーディオ機器を初め、レーシングスーツやステアリングなど、熊谷さんの趣味の広さとセンスの良さがうかがえます。

写真のスピーカーも肉厚の部材を使った完全手づくりのもので、経年



変化で木肌が良い味を出しています。流れてくる音も木の暖かみのある優しい音で、室内の木の香とあいまって癒されます。

熊谷さん曰く、このリスニングルームを造るきっかけになったのは「音齋」だそうです。昨年偶然に目にしたチラシで「音齋」の事を知られて、半信半疑で訪れた安田邸でのレコードコンサートに刺激を受け、音楽好きのハートに再び火がついた、とのこと。

「音齋」でやっているレコードコンサートが、こんな感じで誰かの音楽心に良い影響を与えられるとしたら、この上なく嬉しいことです。

新着情報 其の二

「意ある処 道自ずから拓ける」とは、彼のリンカーンの言葉だそうです。勿論彼は日本語で言ったわけではなく、原文は「Where there's a will, there's a way」です。

下の写真は、JBLのユニットを組み込んだ大型のスピーカーで



す。バックロードホーンと言い、スピーカーの背面からの音を前面に出す仕組みになっています。

このスピーカー、実は「音齋」仲間の水川さんが親類の方から譲り受けたものの一つなのですが、これも「音齋」がきっかけになっていっているそうです。二十年以上もしまい込まれていたこのスピーカーが、巡り巡って再び活躍するために「音齋」にやって来ることになりました。その経緯については「音齋」で水川さんにお話いただくことになっています。

ただ驚くことに、今回寄贈を受けたのはこのスピーカーだけではなくと言うことです。JBLの38センチ口径のスピーカーだけでもオーディオマニア垂涎の代物なのですが、しかもバックロードホーン、スピーカーだけでもこれ以外に二組、真空管のプリアンプ・パワーアンプが三組、ツイーンアーム（カートリッジを付けるアームがターンテーブル一台に二組ついているもの）のプレーヤーが二台…どれもが、一九六十年代、七十年代を代表するオーディオ製品なのです。他にもここに書き切れないほどの製品があります。レコード盤に至っては推



定一千枚ほど、ジャズを中心にしたコレクションがあり、どれも保存状態は良いものばかりです。

先ほどのリンカーンの言葉ではない

ですが、私にとつては「犬も歩けば棒にあたる」的な連鎖なのです。(因みに「犬も歩けば棒にあたる」は、元々は災難に遭うこと(あ)の例えだったようですが、最近では幸運に巡り合う意味でも使われるそうです。)

“音齋処”を始めたことで、眠っていたレコード盤が集まり始めたかと思えば、同じく眠っていたオーディオ装置が集まり始め、その上眠っていたオーディオ心にも火をつけてしまっているようです。

戯言続き

『安価にレコードをハイレゾ化する方法』の対象者は次のような方を念頭に置いています。

- 一、それなりにレコード盤を持っている
- 二、コンピュータは持っている
- 三、レコード・プレーヤーも持っている
- 四、今もっているレコードをiPodやMP3プレーヤー、ハイレゾ・プレーヤー等で聴きたい

レコードのハイレゾ化手順を単純化すると次のよう

になります。

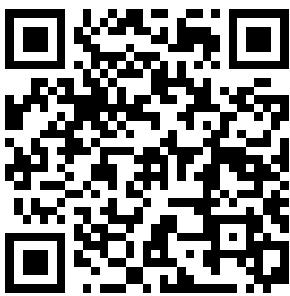
レコード盤をプレーヤーで再生する↓再生した音をコンピュータに取り込む

言ってしまうばこれだけのこと、で最も重要なのが『アナログをデジタルに変換する機器が必要』ということなのです。

アナログでは、プレーヤーとレコーダーを結線すれば録音ができました。コンピュータに録音する時はデジタル信号に変換する必要があり、これがデジタルと呼ばれます。デジタルにはハードとソフトの二つの要素が必要で、その両方がレコードのハイレゾ化での価格的な障害となるわけです。

ハード：…一般的にADCとかDACとか呼ばれるものです。ADCはAnalog-Digital-Converter、DACはDigital-Analog-Converterと呼ばれるもので、その二つの機能を持つものも市販されています。アナログ音源を録音のためにデジタルに変換し、そのデジタル音源をスピーカーで聴くためには再度アナログに戻してやる必要があります、ハイレゾ化には不可欠な機器なのです。

そのため現在には様々な形態の機器が売られ



ていますが、これが結構高価なのが痛いところなのです。

とは言えピンからキリまであるので、値段で選ぶか、機能で選ぶか…迷う処でもあります。

さていよいよ次回は、デジタル初心者向けに、こうした変換用の機器とソフトの中でコスト・パフォーマンスの高いと、私が考える、ものを紹介してみたいと思います。

この続きは次回…といってもいつになるかは私わからないのですが…。

興味のある方は是非“音齋処”においでください。

発行 ◇平成29年9月23日
発行人 ◇“音齋処” 主催者 横田 文孝
お問い合わせは下記アドレスへ
On-Site@tajimiyori.com